

## テーマ：『地域力を鍛えよう』

### ～地域資源を活用して人とビジネスを育てる～

講師	株式会社ブランド総合研究所 代表取締役社長	田中 章雄
	株式会社カルチャーアットフォーシーズンズ 代表取締役 (ふるさと財団・地域再生マネージャー)	中島 淳
パネリスト	豊川市観光協会 事務局長	平賀 菜由美
	有限会社 山文製陶所（やまぶんせいとうしょ） 代表取締役	山本 幸治
	※講師の田中氏、中島氏もパネルディスカッションに参加します	

**開催日時** 2010年12月17日（金） 13:30～17:00（開場 13:00）  
**会場** 愛知県産業労働センター「ウインクあいち」10階 1003号 会議室  
 名古屋市中村区名駅4丁目4-38 TEL:052-571-6131(代表)  
**参加費** 無料

### 【セミナー概要】

少子・高齢化が進み、地域の活力が低下する中で、地域の資源を活用して地域の人材を発掘し、地域の共感を高めながらビジネスを育てていく～地域の自立した存立基盤を形成していく～ことが求められています。

このため、本セミナーでは、地域資源を商品化（ブランド化）する第一人者である株式会社ブランド総合研究所代表取締役 田中社長をお招きし、地域資源の捉え方、磨き方について基調講演をいただきます。次いで、ふるさと財団の地域再生マネージャーである中島氏より、地域資源を活用したビジネスの育て方と人材の発掘について、事例紹介による実践的なお話をいただきます（第一部）。

また第二部では、地元でご活躍中の豊川市観光協会事務局長・平賀菜由美氏と、製陶業に携わっている山本幸治氏に加わっていただき、「地域力を鍛える」をテーマにした座談会（パネルディスカッション）を催したいと思えます。

### 【次第】

#### <第一部>

13:30	開会挨拶	財団法人地域総合整備財団 理事長（初代総務事務次官）	嶋津 昭
13:40	基調講演	『地域資源の磨き方（地域資源を活用した商品づくり）』	田中 章雄
14:30	事例報告	『地域資源活用による地域力の鍛え方』 ～地域再生マネージャーからの事例報告～	中島 淳
15:10	休憩	～10分間～	

#### <第二部>

15:20	座談会	コーディネーター：財団法人地域総合整備財団 地域再生部長	荒井 弘正
		パネリスト：田中 章雄 氏 中島 淳 氏 平賀 菜由美 氏 山本 幸治 氏	
16:45	地域力を高めるために（無料地域診断のご案内）		事務局
17:00	閉会		

#### 【短期診断のお問い合わせ先】

（財）地域総合整備財団（ふるさと財団）地域再生部（担当）赤嶺（あかみね）03-3263-5736

#### 【その他のお問い合わせ先】

愛知県 地域振興部 地域政策課 地域振興グループ（担当）石川（いしかわ）052-954-6096

<基調講演>

**田中 章雄** 株式会社ブランド総合研究所 代表取締役社長

福井県出身。東工大理学部卒。日経BP社、日本ブランド戦略研究所社長を経て、2005年に地域ブランドの調査、コンサルティングを総合的に行うブランド総合研究所を設立し代表取締役社長に就任。総務省・地域人材の活性化に関する意見交換会委員、地域中小企業ポーター、地域ブランドアドバイザー、地域食品ブランド化推進委員、地域観光経営フォーラム委員のほか、岐阜県、埼玉県、栃木県などのブランド戦略委員に就任。2008年知財功労賞経済産業大臣表彰受賞。主な書籍に「事例で語る！地域ブランドの成功法則33」（光文社）などがある。



<事例報告>

**中島 淳** 株式会社カルチャーアットフォーシーズンズ 代表取締役

兵庫県出身。北海道大学農学部卒。1988年に（株）リクルート入社。2001年（株）カルチャーアットフォーシーズンズを設立し代表取締役に就任。山形県遊佐町地域再生マネージャー（2005年度～2007年度＝2006年豊島区にアンテナショップ開設、2007年に開発した農産物パッケージが2008年グッドデザイン賞受賞）。2010年総務省地域力創造アドバイザー（沖縄県石垣島市）、内閣官房地域活性化伝道師。



<パネリスト>

**平賀 菜由美** 豊川市観光協会 事務局長

愛知県豊橋市出身。民間旅行会社で14年間培った経験を豊川市の観光に活かしたいと、2008年に豊川市観光協会の事務局長公募に応募し、同年6月に初の女性局長として就任。また、観光協会のホームページの刷新や「いなり寿司で豊川市を盛りあげ隊」の副隊長（推進部隊長兼宣伝部隊長）として活躍、全国に「豊川市」を広くアピールしている。



**山本 幸治** 有限会社山文製陶所（やまぶんせいとうしょ）代表取締役

江戸末期創業の窯元の6代目。焼酎瓶に酒や水を入れるとまるやかな味になるという斬新な「焼酎サーバー」を売り出したのが12年前。平成20年にはインド料理用のナンや鶏料理を焼く陶製の「タンドール窯」を考案して発売するなど、視野を広げた商品開発に定評がある。アジア製品に押され、衰退の一方の地場産業だが、「大量に売れなくても、日本でしか作れないものはあるはず」と、商品開拓のためアンテナを広げて活躍している。

